

安全報告書

OSAKA MONORAIL *Safety Report*

2026



大阪モノレール株式会社
OSAKA MONORAIL CO.,LTD.



ごあいさつ

平素から、大阪モノレールをご利用いただきありがとうございます。

当社は、「人にやさしい鉄道」「安全な鉄道」「地域に奉仕する鉄道」の経営理念のもと、お客さまに「安心して、楽しく、気持ちよく」ご利用いただき、「安全で正確な鉄道」と信頼されるよう、社員一丸となって取り組んでいるところです。

昨年開催された大阪・関西万博では、国内外から多くの方に来場いただき、大盛況のうちに閉幕しました。当社でも、開幕前から万博ラッピングを施した列車を走らせ機運醸成に取り組むとともに、期間中も大阪空港をはじめ沿線から来場される方の円滑な輸送の確保に取り組んできました。

ハード面では、新型車両 3000 系の導入や、駅のエレベーター・エスカレーター・分岐器の制御盤の更新などを行い、安全・安定輸送の確保に努めました。また、2025 年度責任事故が皆無であったことから、2025 年 10 月に連続 9 期運転無事故表彰を受けました。

ソフト面では、消防局や警察署、関係機関と連携した非常時合同訓練やテロ対応訓練、火災対応訓練、対策本部運営訓練を実施し、事故・災害等によるトラブル発生時の対応力強化を図りました。加えて、地震や台風などの経験を風化させることなく継承するための研修や、異常時対応訓練、過去事例の振り返り教育などを通じて、自然災害への備えも強化いたしました。

引き続き、当社が築き上げてきた安全風土を守り、お客さまが安心してご利用いただけるよう改善を重ね、お客さまに信頼され、喜ばれ、地域に愛される“大阪モノレール”をめざし取り組んでまいります。

大阪モノレール株式会社
代表取締役社長

谷口 友英



※本報告書は 2025 年度における当社の安全確保に関するさまざまな取組の状況を、広く皆さまにご理解いただくために、とりまとめたものです。ぜひご高覧いただくとともに、ご意見やご助言を賜れば幸いです。

目 次

1. 安全に関する基本的な考え方

1-1 安全方針・安全行動規範・防災の基本方針 P.1

1-2 安全目標・安全重点施策 P.1

2. 安全管理体制と方法

2-1 安全管理体制 P.2

2-2 主な管理者の役割 P.2

2-3 安全管理方法 P.3

3. 事故等の発生状況

3-1 運転事故・インシデント・輸送障害 P.4

3-2 輸送障害の概要 P.4

3-3 行政指導等 P.4

4. 輸送の安全確保のための取り組み

4-1 安全重点施策 P.5

4-2 安全管理等の強化 P.9

4-3 災害時の安全対策 P.11

4-4 設備の維持管理 P.15

4-5 安全投資等 P.17

5. お客さまへの情報発信

5-1 お客さま案内モニタ・ホームページ・運行状況案内ダイヤルによる案内 P.18

6. お客さま、工事等をされる方へのお願い

6-1 緊急事態発生時の非常用設備 P.18

6-2 沿線で工事等をされる方へのお願い P.20

1. 安全に関する基本的な考え方

1-1 安全方針・安全行動規範・防災の基本方針

当社は、「人にやさしい鉄道」「安全な鉄道」「地域に奉仕する鉄道」の実現に向けて取り組んでいます。

このうち安全に関しては、組織の基本理念である「安全方針」、社員が遵守すべき具体的な行動指針である「安全行動規範」、災害への備えと対応の基本的な考え方を示した「防災の基本方針」を定め、周知徹底を図っています。

安全方針

1. 私たちは、お客さま安全第一の意識を持ち、全社一丸となって職務に精励します。
2. 私たちは、輸送の安全に関する法令及び関連する規程を遵守し、厳正、忠実に職務を遂行します。
3. 私たちは、安全性の維持向上のために安全管理体制を常に点検し、その向上に努めます。

安全行動規範

1. 社員全員が基本動作を徹底し、一致協力して、輸送の安全の確保に努めます。
2. 常日頃から教育・訓練に計画的に取り組む、法令・規程を理解し遵守します。
3. 常に輸送の安全に関する状況を理解するよう努めます。
4. 事故・災害等が発生した際には、人命救助を最優先とし、被害の拡大を防止します。
5. 風通しのよい職場環境を構築し、情報を漏れなく迅速、正確に関係者間で共有します。
6. 安全管理体制の継続的な改善のため、必要な変革に果敢に挑戦します。

防災の基本方針

1. 平素から、防災・減災など被害の未然防止・拡大防止の取組に努めます。
2. 自然災害の対応を行う際は、お客さまおよび社員の人命を最優先に行動します。
3. 自然災害復旧にあたっては、十分に安全を確保したうえで、早期の運転再開を目指すとともに、適時適切な情報発信に努めます。

1-2 安全目標・安全重点施策

2026 年度の安全目標・安全重点施策

『安全目標』

1. 運転事故・インシデント「ゼロ」
2. 設備不具合によるお客さま負傷「ゼロ」
3. 社内の人為的要因による輸送障害「ゼロ」

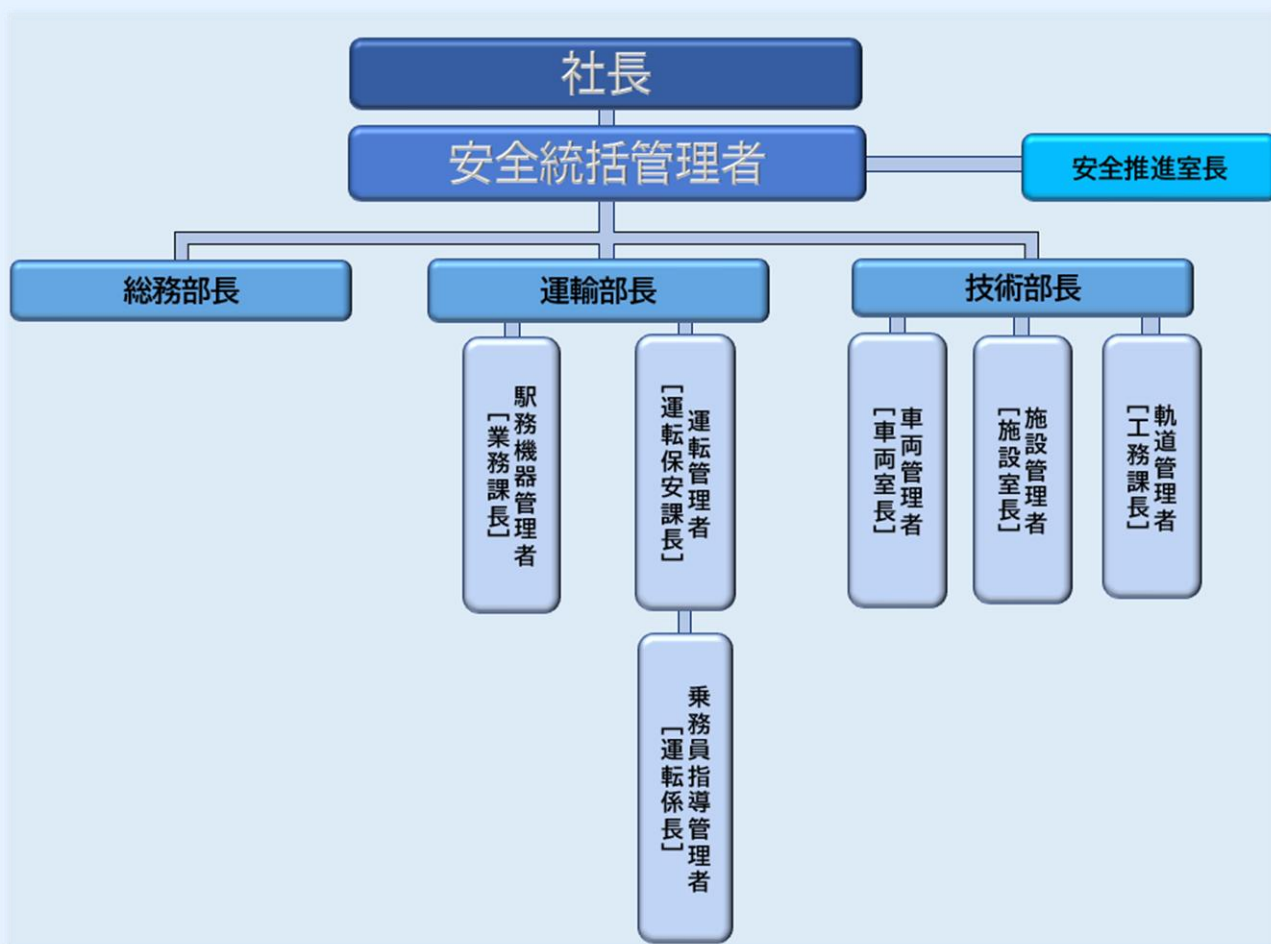
『安全重点施策』

1. 事故・トラブルの未然防止
2. 事故・災害等、トラブル発生時の対応力向上

2. 安全管理体制と方法

2-1 安全管理体制

安全管理規程において、輸送の安全を確保するために遵守すべき事業の実施および管理の体制、方法を定めています。



2-2 主な管理者の役割

役 職	役 割
社 長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負う
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括する
運 転 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括する
乗務員指導管理者	運転管理者の指揮の下、運転士の資質の保持に関する事項を管理する
軌 道 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、軌道に関する事項を統括する
施 設 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、施設に関する事項を統括する
車 両 管 理 者	安全統括管理者の指揮の下、車両に関する事項を統括する
総 務 部 長	輸送の安全の確保に必要な投資計画、予算計画、要員計画に関する事項を統括する
安 全 推 進 室 長	安全統括管理者の指揮の下、輸送の安全の確保に必要な監査計画並びに事故・災害等の防止に関する事項を統括する
駅務機器管理者	安全統括管理者の指揮の下、駅務機器に関する事項を統括する

2-3 安全管理方法

安全マネジメントに関する会議

安全統括管理者を委員長とする「安全マネジメント会議」に加え、経営トップなど管理層を構成員とする「役員安全マネジメント会議」を毎月開催し、事故や事故の恐れのある案件の情報の共有を行っています。



安全マネジメント会議

大阪モノレールの Web サイトでは、大阪モノレールの「安全」そして「安心」のための取り組みを紹介しています。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)



事故防止対策検討会

事故や事故の恐れのある事象が発生したとき、再発防止や被害の拡大防止のため、安全統括管理者を中心に「事故防止対策検討会」を開催しています。

また、他社の事故事例を参考とした対策検討会を行い、自社の事故防止対策に活用しています。

マネジメントレビュー

社長が、社内の安全管理体制が適切かつ有効に機能しているかを評価し、改善措置を行うマネジメントレビューを半年ごとに行っています。

輸送の安全に関する内部監査

安全管理体制が適切、かつ有効であることを確認するため、マネジメントレビューに加え、輸送の安全に関する部署を対象とした内部監査を行い、継続的な改善に取り組んでいます。

社長等による現場巡視

社長をはじめ、運輸部長および技術部長による現場巡視を行い、安全管理の状況を確認しています。2025 年度は、「春の全国交通安全運動」「安全運転推進運動」「秋の全国交通安全運動」および「年末年始の輸送等に関する安全総点検」の期間中に巡視を行いました。



社長による巡視

3. 事故等の発生状況

3-1 運転事故・インシデント・輸送障害

2025 年度において、国土交通省へ報告すべき運転事故・インシデントは発生していませんが、同省へ報告した輸送障害が1件発生しました。

			2023 年度	2024 年度	2025 年度
運転事故			0	0	0
インシデント			0	0	0
輸送障害	社内要因	鉄道係員・ 車両・施設	3	0	1
		第三者行為等	0	0	0
	社外要因	自然災害	2	1	0
		その他	0	0	0

【運転事故】

衝突事故、脱線事故、火災事故、道路障害事故、人身障害事故、物損事故

【インシデント】

運転事故には至らなかったが、運転事故が発生する恐れがあったと認められる事態

【輸送障害】

車両の運転休止または 30 分以上の遅延を生じたもので運転事故に該当しないもの

社 内 要 因…鉄道係員や車両、施設が原因の場合

第三者行為等…妨害や軌道内への立入り等の第三者行為や沿線の火災等の場合

自 然 災 害…風害、雪害、地震等の場合

そ の 他…上記に当てはまらない場合

3-2 輸送障害の概要

輸送障害名：車両障害

発 生 日 時：2025 年 10 月 3 日 6 時 59 分

発 生 場 所：彩都西駅～豊川駅間

概 況：車両故障発生により運転休止や列車遅延が発生しました

影 響：運休 18 本、最大遅延 61 分

原 因：マスコンハンドル内の配線が機器との間に挟み込まれたことにより、ブレーキ故障が発生しました

対 策：同系の全車両に、配線が機器に挟み込まないよう対策を行いました

3-3 行政指導等

2025 年度、行政指導等はありませんでした。

4. 輸送の安全確保のための取り組み

4-1 安全重点施策

(1) 事故・トラブルの未然防止

「安全向上報告」の共有と活用

大きな事故を防ぐカギは、日々の業務に潜む「小さな危険」に気づくことです。そのため、社員から、ヒヤリ・ハット、気がかり事象を集めて共有し、「どうすれば同じような危ない状況を防げるか」を考えながら、事故の未然防止に取り組んでいます。

過去事例の振り返り教育

車両や設備のメンテナンス作業におけるミスや労働災害を防止するため、社員と協力会社を対象とした安全教育を定期的に行っています。

前年度の故障事例やヒヤリ・ハット事例をもとに原因と対策を具体的に学ぶことで、トラブルへの対応力を高めています。



故障、ヒヤリ・ハット事例の振り返り教育

安全衛生連絡大会

点検・工事を行う協力会社および当社の技術部員を対象に安全意識の向上を図るため、安全衛生連絡大会を開催しました。当社の安全の取り組みやトラブル事例の共有、外部講師による基調講演などを通じて安全作業の徹底の重要性を再確認しました。



安全衛生連絡大会

施工計画検討会

工事を行うにあたっては、「質の高い施工」「計画通りの工程管理」「徹底した安全管理」が大切です。そこで工事が始まる前に「施工計画の話し合い」の場を設け、工事を行う会社が作成した計画書をもとに、意見を交換し、お互いの理解を深めることで、「円滑な施工」「適正な安全管理」に寄与しています。また、工事が始まってからも、常に協力し合いながら、安全かつ効率的な作業を進められるよう取り組んでいます。

建築設備の災害事例教育

大規模災害に備え、過去の震災経験や教訓を継承するとともに、被害状況の把握や速やかな対応力を養うための教育を行いました。

教育で得た知識を日常点検に活かし、異常の早期発見と駅舎の安全管理の向上に取り組んでいます。



過去の建築設備災害事例教育

階層別研修

社内で起きたトラブルや失敗事例をもとに、作業層および指導・監督者層それぞれの立場に応じたディスカッション研修を行いました。失敗から得た教訓を次世代へ継承し、安全文化の醸成に取り組んでいます。



階層別研修

車両の更新

更新時期を迎えた車両の更新を進めています。2020 年度から開始し、2025 年度の 1 編成をもって、計画した 8 編成の更新が完了しました。



新型車両の搬入状況

分岐器制御盤の更新

モノレールの進行方向を切り換える分岐器（ポイント）には、動作指令の制御を行う分岐器制御盤を設置しています。更新工事では、分岐器の動作情報などを遠隔で監視する機能を高め、故障発生時の復旧時間短縮やメンテナンス性の向上を図っています。2025 年度は千里中央駅で 1 台、万博記念公園駅で 2 台の分岐器制御盤を更新しました。



制御盤の更新状況

電力設備の更新

大阪モノレールでは、変電所から送られた電気を各電気室で変換し、駅や車両基地のさまざまな設備へ供給しています。

2025 年度は、車両基地内の細部検査場電気室の電力設備を更新しました。



電力設備の更新状況

運転士支援モニタの設置

運転士が扉を閉める際の車両後方の視認性向上と、扉が閉まるまでの安全確保を図るため、2025 年度、6 駅で運転士支援モニタを設置しました。



運転士支援モニタ

運転士支援タブレットの充電改善

運転士が携帯するタブレットの充電切れ対策として携行していたモバイルバッテリーを、安全性向上の観点から、車両コンセントによる直接充電方式に変更しました。



専用コンセントの設置

エレベーター・エスカレーターの更新

お客さまの安全・安心な駅利用環境を維持するため、昇降機の更新工事を行っています。

2025 年度は、大阪空港駅のエレベーター1 基および柴原阪大前駅のエスカレーター2 基を更新し、設備の信頼性向上とバリアフリー機能の維持・向上を図りました。



昇降機の更新状況

(2) 事故・災害等、トラブル発生時の対応力向上

対策本部運営訓練

災害などの緊急時に、お客さまへ正確な情報をお伝えし、安全を最優先に運行判断ができるよう、対策本部運営訓練を定期的に行っています。

2025年度は、モノレール沿線での地震発生を想定した訓練を行い、社内や関係機関との連携強化と緊急時対応力の向上を図りました。



対策本部運営訓練

テロ対応訓練

お客さまの安全を守るため、テロなどの緊急事態を想定した対応訓練を定期的に行っています。

2025年度は、大阪空港駅において大阪府豊中警察署空港警備派出所との合同訓練を行い、車内で不審者が暴れている状況を想定して、警察への通報やお客さまの避難誘導、情報共有の手順を確認しました。訓練を通じて、関係機関との連携強化と緊急時対応力の向上を図りました。



警察による暴漢の取押え訓練

また、刃物を持った暴漢からお客さまを守るための防護用具として、防刃傘を列車・駅に配備しました。



防刃傘の配備

非常時合同訓練

モノレールが駅と駅の間で停止した場合に備え、関係機関と連携した救出訓練を定期的に行っています。

2025年度は、公園東口駅付近において、吹田市消防本部、吹田警察署および大阪府茨木土木事務所との合同訓練を行いました。妊娠中のお客さまや目・耳の不自由なお客さまが乗車している状況を想定し、安全な避難誘導と救助活動の手順を確認し、緊急時対応力の向上を図りました。



側方・降下救出によるお客さま救助訓練

YouTube「大阪モノレールチャンネル【公式】」では、非常時合同訓練について紹介しておりますので、ぜひご覧ください。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)



火災対応訓練

駅における火災を想定した訓練を定期的に行っています。

2025年度は大日駅で守口市門真市消防組合と合同で、火災に対する通報・情報連携の訓練や、お客さまの避難誘導の訓練、消防設備の使用方法などを確認しました。



消防と連携した火災対応訓練

列車の併結訓練

列車が故障などで動けなくなった場合に備え、動けなくなった列車を別の列車と連結し、次の駅まで運転する訓練を定期的に夜間に行っています。



異常時における併結運転訓練

安全マネジメント研修

2025年度は「自然災害」をテーマに、過去の地震や台風の経験・教訓を風化させることなく次世代へ継承するため、ディスカッション形式の研修を行いました。



安全マネジメント研修

保守車両の異常時取扱教育

モノレールの安全運行を支えるため、保守車両を使用した線路点検を終電後の夜間に行っています。

また、保守車両のトラブル発生時に迅速かつ適切な対応ができるよう、定期的に教育・訓練を行い、トラブル時の対応力を高めています。



保守車両のトラブル対応教育

新入社員研修

新入社員を対象に、安全意識を高めるための研修を行っています。社員一人ひとりが「安全第一」の意識を持って業務に取り組めるよう、安全な運行に欠かせないルールである運輸安全マネジメント制度の概要や、当社の安全への取り組み、事故や災害など緊急事態が発生した際の対応について研修を行いました。



新入社員研修

4-2 安全管理等の強化

運輸指令所における列車の運行管理

運輸指令所では、列車の運行管理、変電所の監視、駅の防災管理および非常系設備の管理など、大阪モノレールの主要機能をコンピュータシステムで集中管理しています。

列車出発時には監視モニタによるホームの安全確認を行うとともに、非常時には列車停止や停電操作を迅速に実施できる体制を整え、安全運行の確保と事故防止に取り組んでいます。



運輸指令員による安全監視

大阪モノレールの Web サイトでは、大阪モノレールの「安全」そして「安心」のための取り組みを紹介しています。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)

大阪モノレールの
「安全」そして「安心」
No.13



アルコール検査

大阪モノレールの運転業務および保守・点検するための工作車などの運転業務、業務用自動車の運転に携わる者全員に対し、アルコール検知器を用いてアルコール検査を行っています。検査結果は管理者が確認しています。

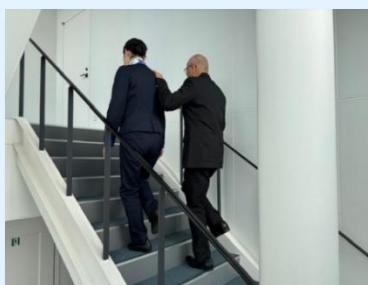


運転士のアルコール検査

サービス介助士の資格取得

サービス介助士は、ご高齢の方やお身体の不自由な方が安心してサービスを利用できるようサポートする専門資格です。利用者の安全・安心を第一に考え、適切な介助方法やコミュニケーションの習得に取り組んでいます。

2024 年度に駅係員全員がサービス介助士の資格を取得し、2025 年度は新たに配属された係員も順次資格を取得しました。



目の不自由なお客さまのサポート

危険予知（KY）活動

事故を未然に防ぐために、作業前ミーティングや運転士の教育・訓練の中で、その作業に潜む危険を予測し、確認し合う取り組みを行っています。

具体的な危険ポイントや行動目標を定め、チーム全員で共有・唱和することで、安全意識の向上と安全行動の徹底に取り組んでいます。



作業前ミーティング

e ラーニングによる教育

社員一人ひとりの安全への意識と知識を深めるため、社員全員が毎月 e ラーニング（パソコンを使った学習）のテストに取り組んでいます。テストの問題は定期的に見直し、何度も繰り返し学ぶことで、「うっかり」や「知らなかった」を防いでいます。

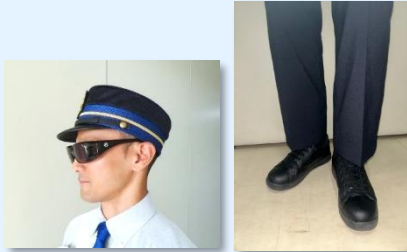


e ラーニングの取り組み

係員の環境改善

運転士の視認性向上と疲労軽減を図るため、運転士用保護メガネを導入しました。

あわせて、運転士および駅係員へのスニーカー着用の導入により、トラブル発生時の機動性の向上を図りました。



運転士用保護メガネと係員用スニーカー

睡眠時無呼吸症候群対策

「SAS（睡眠時無呼吸症候群）」とは眠っている間に呼吸が浅くなったり止まったりする病気で、日中の強い眠気や集中力の低下を引き起こし、安全運転に影響が出る可能性があります。

こうした症状が事故につながらないよう、運転士に対する「眠気度チェック」および「スクリーニング検査」を定期的に行っています。

警戒中の腕章着用等

運転および駅の監督者は「警戒中」と記した腕章を着用し、巡回警備を行っています。また、駅の清掃員もバッジを着用し、お客さまにテロ警戒の呼びかけを行っています。



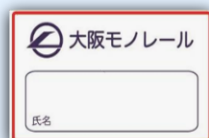
警戒腕章



バッジ

非常時用名札シールの携帯

全社員が非常時用名札シールを携帯しています。私服でモノレールを利用中であっても着用することで、円滑な支援活動につながります。



非常時用名札シール

車内防犯カメラによる監視

車内の安全性向上、犯罪抑止のため、全車両に客室内防犯カメラを設置し、運用しています。



乗降ドア上部の設置例

駅防犯カメラによる監視

駅構内の防犯対策として全 18 駅に防犯カメラを設置し、死角になりやすい場所を重点的に監視しています。



駅防犯カメラ

透明ゴミ箱

駅構内のごみ箱は前面を透明化し、不審物などが投入された際に早期発見できる環境を整えています。



透明ゴミ箱

4-3 災害時の安全対策

(1) 災害への対応

暴風時の対応

暴風時の安全確保のため、沿線3カ所に風速計を設置し、風速情報を常時運輸指令所で監視しています。風速が規定値を超えた場合は、20m/秒超で一部区間の徐行運転、25m/秒超で運転を中止するなど、安全を最優先とした運行を行っています。



風向風速計



風向風速監視システム

地震発生時の対応

地震発生時の安全確保のため、早期地震通報システムと地震計を導入しています。これらの設備により地震情報をいち早く把握し、列車の運行に必要な対応を迅速に行うことで、安全を確保しています。



早期地震通報システム



地震観測システム

・地震被災度推定システム

2018年の大阪府北部地震を踏まえ、地震被災度推定システムを導入しました。地震発生時には揺れのデータから損傷の可能性がある箇所を自動で推定し、点検・修理工を優先すべき場所を迅速に特定することで、早期復旧につなげています。



地震被災度推定システム

YouTube「大阪モノレールチャンネル【公式】」では、地震対策について紹介しておりますので、ぜひご覧ください。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)



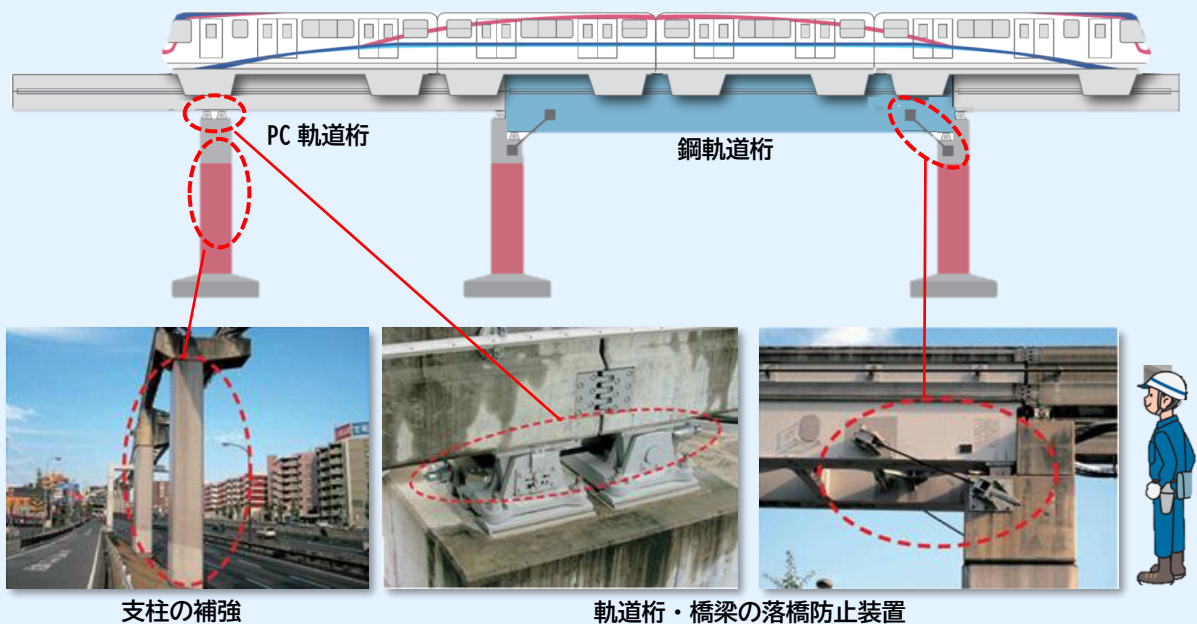
・南海トラフ地震臨時情報発表時の対応

気象庁から「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表された際には、設備および運行体制の確認を行うとともに、地震情報などに注意しながら列車を運行します。

また、お客さまに対しては、臨時情報の発表状況に加え、「地震が発生した際には安全確保のため、列車の運行を急きょ見合わせる場合がある」ことなど、重要なお知らせを駅や車内で案内します。

・耐震事業

マグニチュード7級の内陸直下型の地震に対して必要な耐震性が確保できるよう支柱の補強や、軌道桁の落橋防止、駅舎の制震化、分岐器の制震化などの対策を行っています。



○支柱の補強

コンクリートの支柱に鋼板を巻きたてて、粘り強くなるように補強しました。

○軌道桁の落橋防止装置

大阪モノレールは、広域緊急交通路である府道大阪中央環状線の上空を走っており、地震で軌道桁が落橋して道路を閉塞しないように落橋防止装置を取り付けました。

※広域緊急交通路：災害時に応急活動(救助・救急、医療、消火、緊急物資の供給)を迅速かつ的確に行うための道路

○駅舎の耐震

地震のエネルギーを吸収して、変位を抑えるオイルダンパーを駅舎の躯体に取り付けました。



駅舎の制震装置



○車両基地の耐震

車両基地の留置線が地震で横ズレしないように変位制限装置を設置しました。



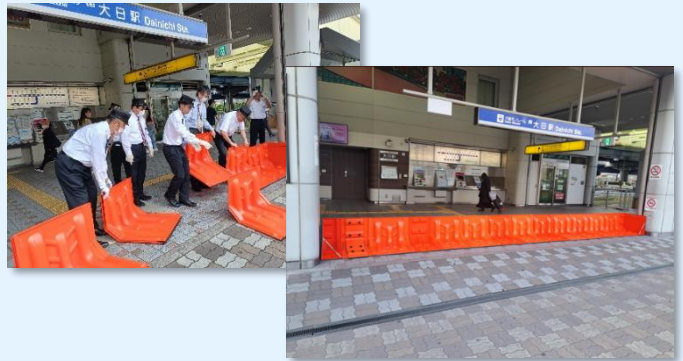
変位制限装置

浸水害時の対応

近年増加する集中豪雨や河川の氾濫などの水害に備え、大阪モノレールでは2020年度に「大阪モノレール浸水対応事業継続計画（BCP）」を策定しました。

お客さまの安全を最優先に、できる限り列車の運行を継続するとともに、運行を見合わせた場合でも早期に再開することを目指しています。

そのため、定期的に訓練を行い、災害への対応力の強化に取り組んでいます。



浸水対策訓練（大日駅）

災害時のお客さま救出方法

大阪モノレールでは、自然災害や重大事故などにより列車が駅と駅の間で停止し、自力で走行できなくなった場合に備え、お客さまを安全に救出するための設備を列車や駅に備えています。

また、沿線の消防機関と連携して定期的に訓練を行っており、万が一の場合には消防隊と協力しながら、お客さまの安全な避難・救出を行います。

1) 前後救出・側方救出

救援する列車が故障した列車に連結・横づけして、乗り移っていただく方法です。



前後救出



側方救出



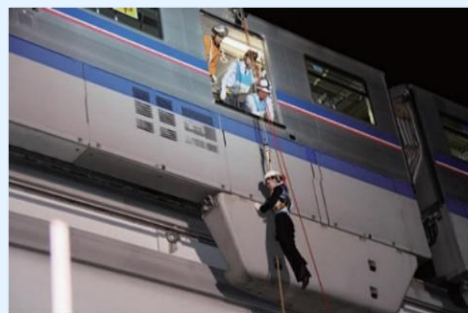
2) 降下救出

列車に備えられている脱出シューターや、緩降機を使用して地上に降りていただく方法です。



脱出シューター

シューター内部はらせん状に滑り降りることができる構造になっています。



緩降機（スローダン）

3) レスキュー救出

消防隊により、はしご車を使用して列車から地上に降りていただく方法です。



消防隊による救出（はしご車）

大阪モノレールの Web サイトでは、大阪モノレールの「安全」そして「安心」のための取り組みを紹介しています。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)

OSAKA MONORAIL

大阪モノレールの
「安全」そして「安心」

No.17

お客さま救出方法
Vol.1



OSAKA MONORAIL

大阪モノレールの
「安全」そして「安心」

No.18

お客さま救出方法
Vol.2



災害時における情報発信

2018 年に発生した大阪府北部地震の被災経験を踏まえ、【4つの基本ルール】に基づき、お客さまへの情報をタイムリーに発信しています。

【4つの基本ルール】

- ①お客さまの「判断」に役立つ情報をお客さま目線で発信する
- ②お客さまが「判断」するのに役立つタイミングで情報を発信する
- ③社内での情報共有を徹底し、情報を発信する
- ④お客さまの声は速やかに社内共有し、意思決定の精度を上げる

大阪モノレールでは、【4つの基本ルール】に基づき、お客さまがご自身で行動を判断できるよう、ホームページや SNS などを通じてタイムリーな情報発信を行っています。

また、緊急時には訪日外国人のお客さまにも正確な情報をお伝えできるよう、お客さま案内モニタにおいて「英語」「韓国語」「中国語（簡体字・繁体字）」による多言語案内を行っています。

台風接近時の列車の運転について

現在、通常運転をしています。

台風の接近に伴い、列車の徐行運転や運転を取り止める場合がありますので、予めご了承ください。

Train Services During Approach of Typhoon

Train services are currently running normally.

Please note that due to the approaching typhoon, trains may be running slowly and services may be canceled.

태풍 접근 시 열차 운행에 관하여

현재 정상적으로 운행하고 있습니다.

태풍이 다가오고 있어 열차를 서행 운행하거나 운행을 중단할 가능성이 있으므로 미리 양해 바랍니다.

关于台风接近时列车的运行

现在，列车正常运行。

伴随台风的接近，列车有可能缓慢运行或停止运行，敬请提前知悉并谅解。

多言語表記モニタ例

4-4 設備の維持管理

(1) 施設の維持管理

法令等に基づき、施設の定期的な検査・点検等を行っています。

列車が運行している時にできない検査や点検は、最終列車運行終了から始発列車運行開始までの時間に行い、適切な設備の維持管理を行っています。

線路の点検

法令や省令に基づき、軌道桁は1年、支柱・橋梁等は2年周期で点検しています。

具体的には、目視による全般検査や徒歩巡視・添乗巡視のほか、保守車両に搭載した測定機器によって軌道桁やそれを支える支承等に、ひび割れ・錆・歪み・ボルトの緩み等の不良箇所や異常がないかを点検し、データを収集しています。この点検によって、異常を発見した場合は、より詳しい調査や調整・補修等の適切な処置を行っています。



保守車両による点検

分岐器の点検



分岐器点検

分岐器（ポイント）は軌道を分岐させてモノレールの進む方向を切り換える装置です。この機能を適正に維持管理するため、月1回の巡視検査（主要部の給油や目視確認）と年3回の自主検査（全般的な機能確認）を行っています。定期的に部品を交換することで、安全運行を確保しています。

信号保安設備の点検

列車の衝突・脱線を防ぎ、安全運行に欠かせない ATC/TD 装置などの信号保安設備は、機能維持のため定期的に検査を行っています。ATC/TD 装置は2016年度から、機器状態を自動的に測定し保存する機能や詳細な故障情報を記録する機能を付加した装置に順次更新し、安全性の向上に取り組んでいます。

（ATC/TD 装置：自動列車制御装置/列車検知装置）



信号保安設備点検

電力設備の点検



電力設備点検

モノレール車両の動力、信号通信設備および駅設備などに電力を供給する電力設備は、運行の安全確保に重要な設備です。

電力設備は、法令に基づいて点検周期を定め、定期的に点検を行っています。

(2) 車両の維持管理

法令や省令に基づき、各種検査を行うとともに、会社独自の自主検査も行っています。

車両の検査

検査名称	検査周期
列車検査	10日を超えない期間ごと
周期検査【自主検査】	概ね1カ月周期
月検査	3カ月を超えない期間ごと
重要部検査	4年を超えない期間ごと
全般検査	8年を超えない期間ごと

重要部検査・全般検査



①車体と台車を分離



②台車吊り上げ



③台車からタイヤを分離



④総合検査

大阪モノレールのWebサイトでは、
大阪モノレールの「安全」そして「安心」のための取り組みを
紹介しています。
(画像をクリックするか、二次元コードを読み込んでください)

© OSAKA MONORAIL
大阪モノレールの
「安全」そして「安心」
車両の定期検査
No.12



4-5 安全投資等

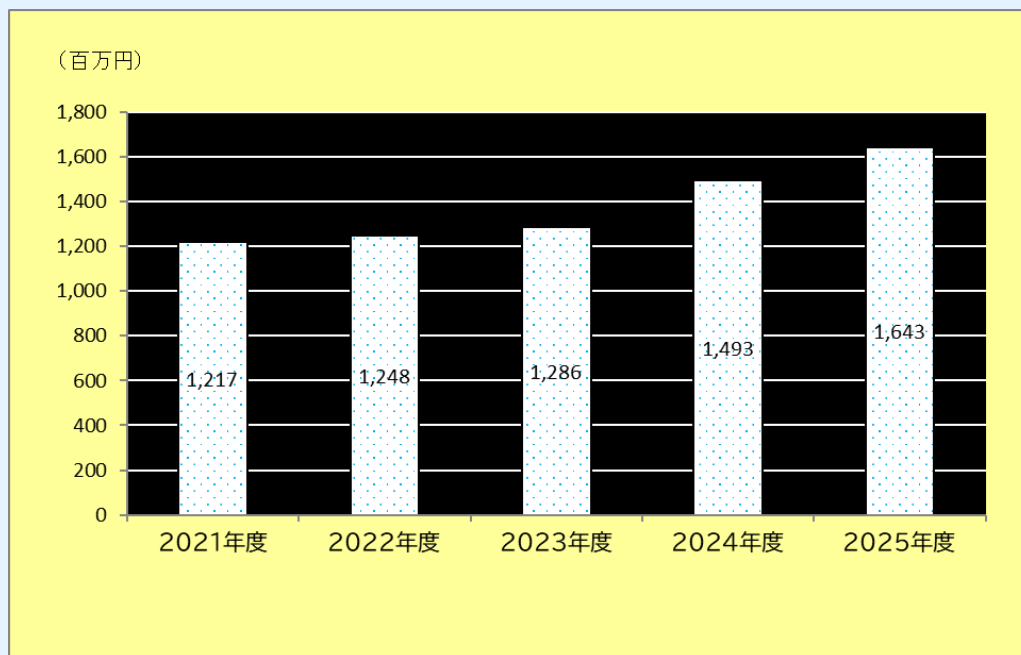
2021年度から2025年度まで過去5年間の軌道事業における安全に関する主な設備投資および、点検・検査等に関する修繕費は以下のとおりです。

安全に関わる設備投資及び修繕費

(1) 設備投資

年度	主な設備投資
2021年度	新造車両（3000系）の導入、可動式ホーム柵の設置、万博公園変電所の設備更新
2022年度	新造車両（3000系）の導入、可動式ホーム柵の設置、万博公園変電所の設備更新
2023年度	万博公園変電所の設備更新、分岐器制御盤の更新
2024年度	新造車両（3000系）の導入、工作車の更新
2025年度	新造車両（3000系）の導入、駅継電連動装置の更新、旅客案内表示モニタシステム更新

(2) 修繕費



◎修繕費の主な業務内容

施設関係：分岐器保守点検、工作車保守点検

電気関係：受変電設備保守点検、信号通信設備保守点検

車両関係：車両重要部全般検査、走行輪タイヤ交換

5. お客さまへの情報発信

5-1 お客さま案内モニタ・ホームページ・運行状況案内ダイヤルによる案内

輸送障害等の発生時における自社の運行情報、振替輸送情報等を速やかにお客さまへご提供するため、お客さま案内モニタを全駅構内に設置しています。

また、ホームページや運行情報案内ダイヤル（ナビダイヤル）により、列車の遅延に関する情報を発信しています。



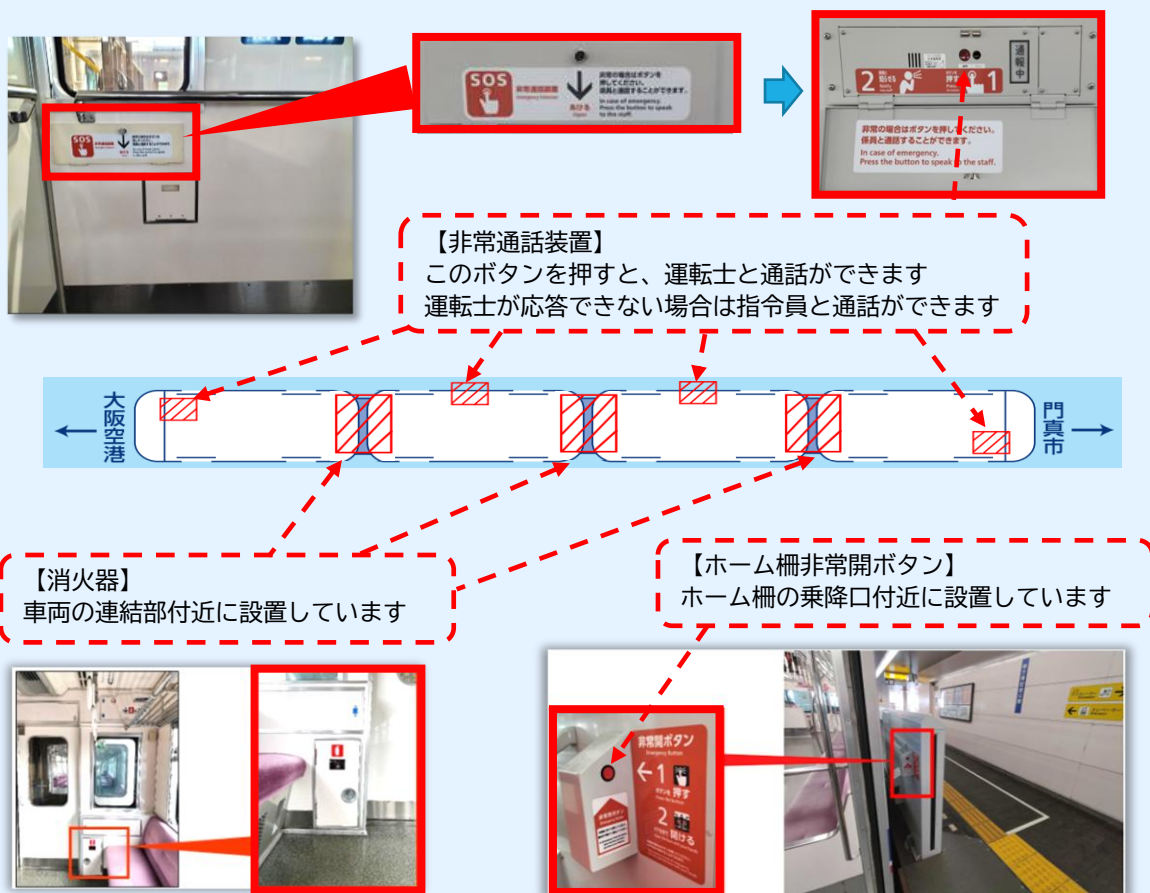
お客さま案内モニタ

6. お客さま、工事等をされる方へのお願い

6-1 緊急事態発生時の非常用設備

(1) 車内でのお願い（非常通話装置、消火器、ホーム柵非常開ボタン）

車内で緊急事態が発生した場合は、運転士へ通報してください。火災発生時にはご自身の安全を確保できる範囲で、初期消火にご協力ください。また、緊急時に駅に到着後、ホーム柵が開かない場合は、ホーム柵非常開ボタンを押して手動でホーム柵を開けてください。



非常用設備をよりわかりやすくお客さまにご理解いただけるよう、国土交通省の「車内非常用設備等に関するガイドライン」に沿ったピクトグラムを導入しています。

(2) ホームでのお願い（列車非常停止装置、非常電話）

- ・ホームで不審物等を発見された場合には、近くの係員にお知らせいただくか、ホームに設置しているホーム操作箱の「非常電話」で駅係員へお知らせください。
- ・ホーム下に落とし物をされた場合は、近くの係員へお知らせいただくか、改札窓口の駅係員にお知らせください。
- ・ホームから転落したお客さまを発見された場合には、ホーム操作箱の「列車非常停止ボタン」を押し、「非常電話」で駅係員へお知らせください。



設置個所案内看板

【列車非常停止ボタン】

このボタンを押すと、列車は停止信号を受け、その駅への進入およびその駅からの進出ができなくなります

【非常電話】

ホーム操作箱内にある非常電話を使用して、駅係員と通話ができます



ホーム操作箱

6-2 沿線で工事等をされる方へのお願い

【大阪モノレール沿線で工事等をされる方に】

大阪モノレール沿線で工事等をされる方に 「事故防止にご協力を」

モノレール近傍で作業工事等を行う際は、必ず事前にお問い合わせ下さい

大阪空港駅～門真市駅間と万博記念公園駅～彩都西駅間で営業しております大阪モノレールは、列車が軌道に跨座し、軌道側面の電車線(直流 1500 ボルト)から電気を供給して走行しております。

このため、モノレール構造物に近接する作業や、モノレール沿線での重機械等の使用は、感電や車両接触事故をはじめ、急ブレーキによる乗客の負傷等、重大な事故や、運行阻害を招くおそれがあります。

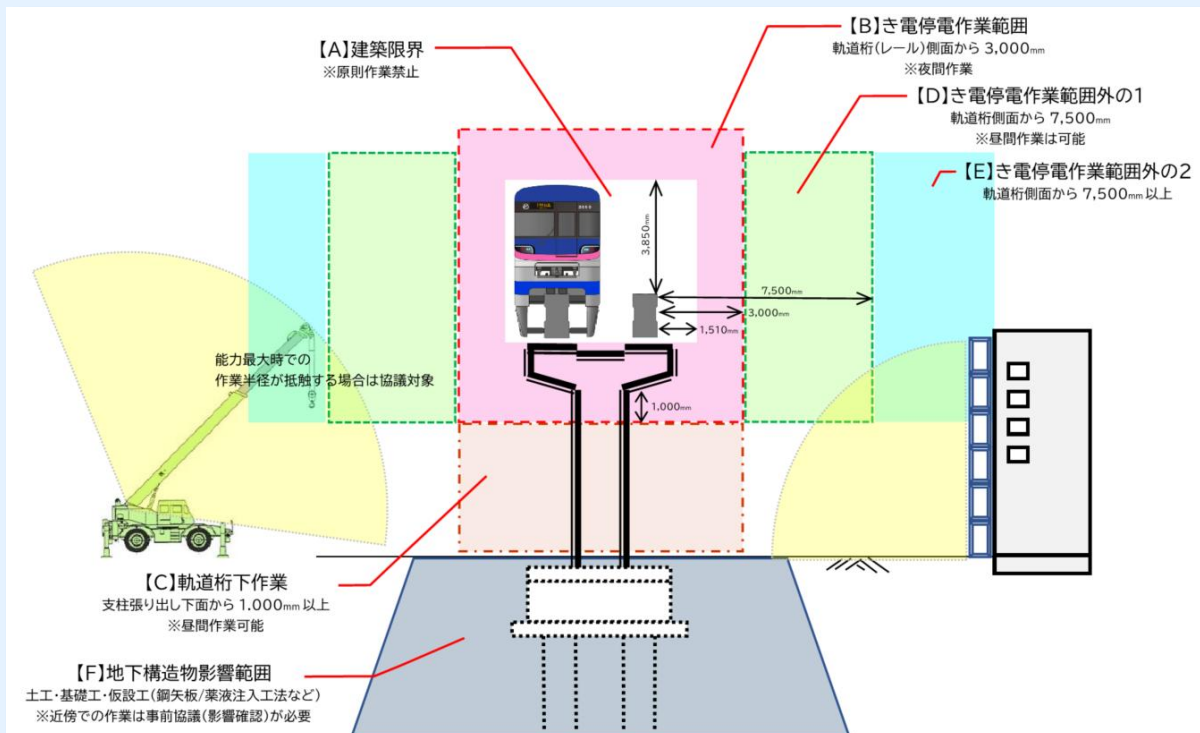
当社では、重大事故防止の観点から『建築限界』、『き電停電作業範囲』、『地下構造物影響範囲』などを設定しており、モノレール沿線近傍で作業、工事等を行うには、これらの近接作業に該当するか否かも含めて、事前に『確認』または『近接協議』が必要となります。

〔建設工事公衆災害防止対策要綱(令和元年9月2日 国土交通省告示第496号)〕

【近接作業(協議及び事前確認が必要)となる範囲】

※ 下図に概ねの範囲を示しますが、施工現場にはこの様な区分線がありません

また、作業内容等により近接作業となるか否かは変わりますので、必ず事前にお問い合わせください



連絡先

大阪モノレール株式会社 技術部企画課

電話 06-6875-5780

〒565-0826 吹田市千里万博公園1-8

〈ホームページ〉沿線での工事実施について | 大阪モノレール株式会社

<https://www.osaka-monorail.co.jp/company/construction/caution/>

【安全報告書に関するお問い合わせ】

安全推進室 06-6319-9961

（ 受付時間： 9時～17時 45 分

土・日・祝日・年末年始は休み ）

